

役行者：古代の禁欲主義者は修験道を作るためにどのように二つの信仰を混ぜたのか

何世紀もの間、日本人は吉野を自然の美しさ、特に 3 万本の桜で祝ってきました。なぜ吉野には桜がこんなにたくさんあるのでしょうか？桜の木はここで偶然成長したわけではありません。実際、それらは神聖な木であり、宗教的献身の一形態を表しています。この桜の信仰の起源は、あなたが出会う神秘的な古代の人物にあります。彼は、おなじみの前鬼と後鬼という二人の鬼に囲まれた、ひげを生やした隠者のように見えます。彼は、役行者または役小角として知られており（634-c. 700）、山岳信仰と民俗信仰、神道、仏教、密教の信仰を組み合わせた高度に統合された宗教である修験道の創始者として知られる半伝説的な神秘家であり術師です。

役行者の人生は神話に満ちていて、ほとんど知られていません。彼は、シルクロードの東の終点の一部であり、仏教のような輸入された信念の中心地である奈良盆地の茅原村で生まれたようです。幼い頃から、彼は仏教の学習にすぐれた才能を発揮し、葛城山地で精神的な禁欲生活を実践しました。30 年以上にわたり、彼は草木に関する深い知識を蓄積し、超自然的な力を発達させ、鬼を弟子にしたと言われています。

人類に平和をもたらすことを目指して、役行者は大峰山で千日間祈ったところ、仏陀と弥勒菩薩と観音が訪れました。その優しい表現は、人々が悪い行いをやめるように説得することはできないと役行者は考え、解決策を求めました。かれらは雷と火が噴出する天に昇りました。その代わりに、新たに訪れた神が、仏の姿が神道の神となった蔵王権現でした。その顔は人々を怖がらせるために激しい表情を見せていましたが、その体は思いやりを表す青色でした。この光景に感動して、役行者は桜の木に蔵王権現を姿を彫り、修験道の本尊にしました。吉野では、彼は後に修験道の総本山である金峯山寺を設立しました。役行者の信者は修験道での基礎的役割を果たした桜の木を崇拜したため、かれらは吉野全体に桜の木を植えました。

役行者については多くの伝説がありますが、かれは公式記録にも記載されています。797 年に完成した記録によると、「続日本紀」によれば、「小角は鬼を操り、水を汲んだり薪を集めることができた。鬼が従わないとき、呪術を使って彼らを縛った」。弟子の一人である韓国広足が、彼に嫉妬し、黒魔術を行ったと虚偽の告発を行ったとき、皇室は 699 年に伊豆大島に役行者を追放しました。彼は 701 年に無実であると宣言されました。彼の死後、韓国広足は典薬頭となり、役行者の草木の知識は皇室に利益をもたらしました。

役行者の亡命にもかかわらず、彼の教えは信者を吉野山に引き寄せ続けました。「規律による精神力への道」と解釈できる修験道は、日本の伝統的なシャーマニズムや真言宗を含むゆるやかな信念体系になりました。修験道の信奉者は、観無量寿経として知られる仏教の経典が役行者へ由来すると考えますが、それは正統とは見なされません。

亡くなってから 1100 年を記念し、1799 年に彼の信者は神変大菩薩の称号を授与する式典を開催しました。73 年後、日本政府は修験道を複数の信仰が混淆しているため違法としましたが、戦後の憲法に基づいて修復され、宗教の自由が保障されました。

今日、役行者は吉野だけでなく、京都府、岡山県、山形県など修験道の他の聖域でも尊敬されています。山岳修道者は、山での精神的な訓練を実践し、国民の平和、安全、安全を求めています。